

5―6

1

從壺番三拾番迄

御書類之写

大谷家有限品ニ付写置もの也

勝意誌

2 (白紙)

3 (白紙)

4

大屋九右衛門殿

臼五郎左衛門

目出度年之暮

にて万々御仕廻候

哉、承度候、扱_者

此懸物

大猷院様之被遊候絵_ニて我等

親より持来候家之祈祷候も

5

成可申候間、元旦御かけ可有候

送進□□候神□とく

可進候後何かと令

延引候、以上

廿八日

昨日御祝義給

忝存候

6

大屋 九右衛門殿

荒志摩

今度時服被遣為御礼当地

被参由_{ニ而}前刻_者入来塩蛸

一器給令満足候、令他出不能面談候

猶又過日_者礪竹百合草并花入

7

竹給令祝着候、恐々謹言

七月晦日

□□(花押)

8

口上

書狀殊串海鼠

老箱三拾桁入贈

給候、誠遠路心付

之通令祝着候、尚

追_而可申候間不具候

9

恐々謹言

松平右衛門太夫

極月廿四日 正（花押）

村川市兵衛殿

大屋惣左衛門殿

参

10

松平右衛門太夫

正綱

ノ

大屋九右衛門殿

宿所

今朝_者被相尋、殊串咆

五百入老箱預持参候、心

付之通令祝着候、令他出

不能面談候、猶期面候、恐々

11

謹言

八月十四日 正綱（花押）

12

大谷九右衛門殿

河村彦十郎
蓮花寺五郎八

追啓、御発駕之節

御門前_江被罷出候_而

13

勝手次第_与被仰出候間

例之通可被罷出候

以上

四月十九日

14

大谷九右衛門殿
河村彦十郎
蓮花寺五郎八

猶以五時前御出可有之候
以上

以手紙令啓達候

明日

15

御目見被仰付候間
五時御座敷_江可被
罷出候、以上

四月十九日

16

大屋九右衛門殿
河村彦十郎
蓮花寺五郎八

其元儀明十五日四時
御目見被

17

仰付候間可被出候、以上

十二月十四日

18

大屋九右衛門殿
河村彦十郎
蓮花寺五郎八

以手紙令啓上候

然_者明十五日四ツ時

19

出羽守逢可被申候
間御出候様ニ申付候条
如此御座候、以上

十二月十四日

20

八月五日御状忝披見
弥無事御入就中
竹嶋松寫_江御越候

船無恙過六月帰

朝旨旁以目出珍重

21

御満悦之段令察候

梅檀板義御取寄候

処、難風付_而捨り申

故来春御申遣候

半旨為入御念

儀候、且又我等儀

22

堅固有之候、猶期

後音時候、恐惶謹言

大久保和泉守

十一月廿七日 正朝(花押)

23

大屋九右衛門様

24

尚以息災御入候由

目出度義共_ニ候

ゆりあしかのい御

取寄候_者御越

可為本望候、以上

村川市兵衛参府付_而

25

御状并扇子壱箱

五本入贈給、過分至候

然_者御手前弥無為

由、珍重此時候、且又

我等義堅固一類中

無恙候間、可安御心候、随_而

26

当春竹嶋へ渡海御申

付候条夏中可為帰帆旨

来春も舟御越之由令

承知候、定_而首尾能候はん

存時候、内々申達候

百合草海鹿之膽參

27

着候^者可給候、御当地
御静謐之段市兵衛可有
物語候、猶期後喜時候
恐々謹言

大久保和泉守

七月卅日 正朝（花押）

大屋九右衛門様

28

猶以御懇情之段
本望至候、以上

八月十五日御状令

披見候、弥御無異候はん

珍重此事候、且又

我等儀無恙候、然^者

29

兼^而所望之百合草

根甘みちの膽十并

御所持之桐木壺本

御廻、昨日着船過分

至候、委細紙面趣

承知申候、両嶋^江

30

渡海之舟無異義

帰帆目出度御悦

段察入候、猶期後

喜時候、恐々謹言

大久保和泉守

十二月三日 正朝（花押）

大屋九右衛門様

31

尚々無事^ニ候哉、承度候
各達参府可然存候^而

如此候、以上

態一筆令申候、其筋

別条無之各御無事候哉

32

当御地御静謐茂吾等

父子共ニ無恙有之候、然者

御代替遠国之衆中茂

其方之様成衆茂何茂

御目見致参府候間

相模守殿御在江戸之事候間

33

能時分ニ而候、早々被致

参府可然候、相模守殿

御屋敷より使可有与存

如此候、恐々謹言

阿倍四郎五郎

五月八日

政重（花押）

34

村川市兵衛様

大屋九右衛門様

人々御中

35

正月八日別紙之御状

令披見候、去冬

首尾能

公方様へ御目見江

難有被存候旨、尤候

36

我等儀も弥無事

在之事候、来春

竹嶋へ舟被相渡候旨

無事着岸之左右

可承候、材木之儀

両人へ之書状申達候

37

段重而者子息

御目見ニ可被指越候由

令承知候、一段可然候、

無氣遣御越可有之候
猶期後音候、恐々
謹言

38

安倍四郎五郎

正月晦日 政重（花押）

大屋九右衛門様

御返報

39

尚々道中無

為在所へ被相着候哉

無心元候、以上

去十一月大坂より之示預

披見如承意、去頃

40

首尾能御目見江

相濟恐悅之旨尤存候

大坂迄無異儀被罷

越之由目出珍重候

然^者竹嶋近辺松嶋へ

渡海之儀被申越令

41

得其意候、村川市兵衛

方相談被仕如類年

渡海可然^与存候、将又

我等一紋無恙在之事候

尚期後音候、恐々謹言

安倍四郎五郎

42

六月廿一日 政誠（花押）

大屋九右衛門様

御返事

追^而鯉節百贈給御志過分至候

寔去頃ハ永々在江戸之處何之

43

馳走不申残念候、以上

阿倍四郎五郎

六月廿一日

大屋九右衛門殿

猶以惣助爰許代々之名

九右衛門^与申上候間、其方名を

替緩々^与休息可然候

委細^者惣助^ニ申含候、以上

卯月三日之来札

披見、今度惣助罷下

44

遂面談候處、其方達者
候得共眼病睨無之

重^而御当地^江参府

難成候由申付、此度元服
為致、九右衛門^与名を改
御老中^{江茂}差越

45

過廿八日^ニ首尾能致

御目見候間、難有儀

大慶可在之候、委細^者

惣助可為演説候、且又

下緒一具饋給之

欣然之至候、我等儀^茂

46

一段父子共無事在之候間、

可御心安候、竹嶋^{江之}

用事惣助^ニ書付申

談候、猶期後音候

恐々謹言

阿倍四郎五郎

47

六月二日 政重（花押）

大屋九右衛門様

御返報

48

大屋九右衛門様 長谷川正悦

尚々昨晚去方へ振舞ニ参候而

不懸御目、千万御残多存事候、為

御礼如此御座候、不及御報候、以上

一昨日首尾能御目見目出度

存事候、依之昨日者私宅江

御出殊ニうねさし足袋五足預

49

御持参、却而痛入申候、併御心入之程

忝存候、猶近日御暇出可申候間

其刻面上御礼旁可申伸候、

恐惶謹言

十月晦日 □□(花押)

50

十五番

一筆申入候、大屋九右衛門

当夏礮竹江渡候船之

内一艘朝鮮国江被放

船者破損候へとも人ハ

損不申釜山海より宗

51

對馬殿へ送り届候由

對馬殿より殿様大坂

御蔵屋敷迄申来候由候

右之様子對馬殿より

言上之上を以重而

御左右可在之候と聞之

52

申候間、追付様子可相聞候

無異儀罷戻ニ而可在之候

右之者共妻子行未不存

歎居可申候間、右之趣

被仰聞候ハ、安堵可申候

此通大屋へ可被申渡候、

53

恐々謹言

荒内匠 □氏（花押）

十一月廿二日

坂川分左衛門殿

大脇多左衛門殿

54

尚々申候、其元無事候由

玆重存候、以上

過七日之御状披見、然_者

竹嶋_江渡候其方船

朝鮮国釜山海_江流

55

され破損荷物も悉

減少之由、然とも船頭

水子無恙對馬_ニ在之由

到来候へとも從對馬殿

江戸_江被致注進之

彼使者帰次第荷物も

56

水子共も帰シ可有之由

紙面令承知候、對州

より右之者共帰参

次第様子聞届

江戸_江可被致参府候旨

一段尤候、殊雲州

57

とも嶋鯽_ニ喉饋給

過分之至候、我等儀無事

御用仕廻、今日至

伏見一宿、明日令上京

直_ニ江戸_江可罷下候

来春参府_者其節

58

可申承候、恐々謹言

阿倍四郎五郎

十二月十三日 政重（花押）

大屋九右衛門様

御返報

59 （白紙）

60

年始之為祝詞

飛脚殊煎海鼠

到来満足申候

謹言

61

但馬

正月廿二日

成重（花押）

大屋九右衛門とのへ

62

竹嶋船就帰着

飛脚殊三種

到来候、欣然之

63

事候、委細白井

七左衛門可述候也

但馬

成重（花押）

大屋九右衛門とのへ

64

為年頭之祝儀

飛脚殊真鴨二到来

心入之段欣然之至候

其元無相替儀由珍

重候、竹嶋松嶋へ

65

来月末出船之由、尤之

事候、謹言

修理

□□（花押）

大屋九右衛門殿

66

今度魚問屋役
相務候付以飛脚
鴨壺番到来
欣然之事候

67

謹言

荒修理

正月三日 □□(花押)

大谷政太郎殿

68

為年始之嘉儀
家来方迄飛簡殊
雉子一番到来
欣然之至候、紙面之趣
念入儀_ニ候、謹言

69

荒修理

正月十九日 □□(花押)

大谷政太郎殿

70

家頼方迄芳札披見
如來意改年之慶事
申弘候、各無異儀一段之
事候、我等_茂堅固
超歲申候、年頭為祝詞
雉子一番被指越欣然之

71

至_ニ候、猶追_而可伸候
恐々謹言

荒志摩

正月廿日 勝□(花押)

村川市兵衛殿

大谷九右衛門殿

72

家来所迄芳札令

披見候、弥御無異之由
珍重候、年始為嘉詞
以飛札一品被相饋之
被入念候段、過分之至候

73

恐々謹言

和田遠江

正月廿日 信□（花押）

村川市兵衛殿

大谷九右衛門殿

74

為年始之祝儀
煎海鼠到来候
満足申候也

75

但馬

成重（花押）

大屋九右衛門とのゝ

76

家来方迄芳札
披見、如来意改年之
慶事申弘候、各無異儀
一段之事候、我等^茂
堅固令超歳候、為
年始之祝詞肴一種

77

被差越欣然之至候
猶追^而可述候、恐々謹言

津周防

正月廿四日 □□（花押）

村川市兵衛殿

大谷九右衛門殿

78

為年甫之嘉儀
家来所迄示殊鮑
一簞饋給之被入念候段

欣然之事候、為謝礼
如是候、恐々謹言

79

荒伊豆

正月十五日 利氏（花押）

大谷九右衛門殿

80

家来方迄御状令

披見候、改春之慶事

不可有尽期候、此表無

別条候、曆首之為嘉詞

示殊鮑一折被相送之

81

入念候段過分至候、為

謝詞如是候、恐々謹言

鵜民部

二月九日 兵□（花押）

村河市兵衛殿

大谷九右衛門殿

82

為年甫之嘉詞

家来方迄書状令

披閱候、弥無異

加年之由一段之事候

仍而看一種到来

83

欣然之至候、謹言

上総

豊□（花押）

村川市兵衛殿

大谷九右衛門殿

84

今般家督為祝儀

看一種送給被入念段

欣然之至候、為謝礼

如此候、恐々謹言

85

平右衛門

四月廿二日 □□(花押)

大谷政太郎殿

86

為年甫之嘉儀

家頼處迄来札

殊肴一種至来欣然候

弥無異加年旨

一段之事候、謹言

87

清之助

正月十八日 長胤(花押)

大谷新九郎殿

88 (白紙)

89

酒井讃岐守

人々御中 安倍四郎五郎様 忠勝

昨日^者伯耆国町人大屋九右衛門

私宅へ参候付御使被指添候、右之

九右衛門儀竹嶋へ船旨渡候、此頃

90

罷帰候例公方様へ御目見仕由

令得其意候、随^而貴殿儀炎天之

節毎日御普請場へ御出候儀

御太儀存事候、何も期面上之

節候、恐惶謹言

八月十五日

忠勝(花押)

91

尚々惣助儀生付能

御手前仕合と我等兄弟共

寄合噂申事候、可有御満足候、以上

四月三日之一翰令披見候

然^者貴殿儀眼病氣付^而

為名代同性惣助御下候

同名四郎五郎肝煎^二而

92

首尾能御目見く

被仕候間可有恐悦候

随^而下緒大小一具贈給

忝存候、将又我等一類共

堅固相勤候、猶期後

音之時候、恐々謹言

93

阿倍忠右衛門

五月晦日 正義(花押)

大屋九右衛門様

御返事

94

口上之覚

今度当御地^江

被相越候^二付、昨日^者

御入来、殊竹嶋丸

干鮑一箱預持参

95

怡悦之至候、為其

如此候、以上

秋元撰津守

五月廿日 使

96

口上之覚

昨日^者干鯛一箱

預持参令祝着候

為其如此候、以上

秋元但馬守

三月廿九日 使

97

昨日^者干鯛一箱

持参令祝着候

為其以使申候、以上

加藤佐渡守

三月廿九日 使

98

御状拝見申候、竹嶋舟無事^ニ
罷戻九右衛門仕合も大願^ニ可在之由
一段儀候、油直段相究其元^{ニ而}
払残弥上方へ成共何方へも
九右衛門心次第尤候、将又尾高町
傳右衛門後家相果候由、家ハ弥

99

壳家可被仰付候、其上^{ニ而}
此方へ可被仰越候、恐惶謹言

荒但馬

七月廿五日 御書判

坂川文右衛門殿

大橋太左衛門殿

加納久太夫殿

100

家来方へ御状之通御慶申納候
無恙御越年之由目出度存候
如来意我等儀結構被
仰付有難仕合候、御祝候^而雉子二
御饋過分之至不浅存候、御当地
相替儀無之候、頓^而罷歸慶事

101

可申承候、呉々御心入之段御礼
不得申候、恐々謹言

津田監物

正月廿二日 □(花押)

大屋九右衛門殿

御報

102 (白紙)

103 (白紙)

104 (白紙)

105 (白紙)

106 (白紙)

107 (白紙)

108

御状令披見候、如来意
其後不申通候、然^者
杵築御造営之儀未何共
不被仰付候、於相濟^者誰々
請取候共被申越候、材木之儀

109

相談可申候、尚来春以面
可申述候、恐々謹言

乙九郎兵衛

十二月八日 □(花押)

村川市兵衛殿

大屋九右衛門殿

御返報

110

尚々預音門

令祝着候、以上

飛札殊諸白一樽饋給

深志之至令祝着候、御手前

久々眼氣御煩之由如何候、無

心元存候、折角養生專要^ニ候

111

将又杵築御造営之義未被

仰出も無之候、何も聞合肝煎

可申、猶期後音候、恐々謹言

乙九郎兵衛

卯月廿日 花押

大屋九右衛門殿

返報

112

明暦貳年申九月二杵築国造君より被下
御書翰也、左^ニ書戴置候事

平兵衛迄芳墨之趣

申聞せ候、去秋琴之板之儀

無心令申候之處^ニ梧之

丸木壺本送給候

懇意不淺候、遠方之處

113

内々令無音候、猶期来
信候、恐々謹言

国造北嶋

九月二日 廣孝（花押）

大屋九右衛門尉殿

114 （白紙）

115 （白紙）

116 （白紙）